

研究課題：新規経口抗凝固薬 NOAC (dabigatran, rivaroxaban, apixaban) 服薬前後における凝固・線溶系分子マーカーの動態

研究代表者：医療技術学部 臨床検査学科学科長 川杉和夫

研究紹介：われわれの研究室では、凝固・線溶系に関わる研究を行っている。その中で、最近特に注力している研究を幾つか紹介したい。まず、DOACに関連した研究であるが、DOACは経口の抗凝固薬として処方例が急増している一方、DOACを安全かつ効果的に使用するためのモニタリングに関してはまだ定まった方法がなく、試行錯誤の状態となっている。われわれはThrombin generation assayやAPTTの波形解析などを通じてDOACのモニタリングをどのように行うべきかを検討しており、その一端としてTGAはDOACの抗凝固作用を良く反映していることなどを明らかにしている。またわれわれは、播種性血管内凝固症候群(DIC)進展にヒストンが関与していることを明らかにしてきたが、現在ヒストンの由来や抗DIC薬がヒストンにどのような影響をおよぼすかなどについて検討している。さらにわれわれは、エイジングが凝固・線溶系の分子マーカーにどのような影響をおよぼすかについても検討している。われわれの検討では、D-dimer値は年齢の影響を受け、年齢と共にその値は上昇することが明らかになっている。